



紅葉谷さんぽガイドBOOK



天然ミストシャワーを全身に浴びて心も体もリフレッシュ！

森林浴を楽しみながら都会では
 感じるができない森の生命力を全身に
 自然を体感できる貴重なスポット
 「紅葉谷」を楽しんでください。

ガイドブック目次

- ①紅葉谷散策マップ P2
- ②紅葉谷散策ガイド P3～P5
- ③紅葉谷で見られる花 P6
- ④紅葉谷で見られる紅葉する代表的な樹木 P7

紅葉谷散策マップ

紅葉谷コースタイム (片道約 1.2km)

①紅葉谷駐車場→(10分)②赤石川分岐→(10分)③オンコ岩→(10分)④紅葉滝

★帰路は往路を辿る

0 200m



紅葉谷散策ガイド



①九十九沢・滝

九十九沢の水源は、標高1800m周辺の黒岳東斜面にある沢で、沢から流れる伏流水は北海道の名水にも選ばれており層雲峡の生活水に利用される。九十九滝は、春先(例年5月上旬頃)の雪解け水や大雨などの増水時に一時的に現われる幻の滝。滝の形態は、断崖から地下水脈が流れ落ちる「潜流瀑」となる。



②マダラスズ

体長6~7cm程の小型のコオロギで、温泉地などの地熱帯では真冬に鳴く虫として知られる。マダラスズは、全国的に分布しており、平地では6~8月にかけて成虫が盛んに鳴き、冬は卵で越冬する。紅葉谷では、駐車場周辺などの地熱帯で1年中「ジージー…」と小さく単調な声で鳴く姿が観察できる。



③紅葉谷入口

層雲峡温泉の紅葉の名所。紅葉谷周辺ではハウチワカエデ、イタヤカエデ、アカイタヤ、ナナカマド、ダケカンバ、カツラなどが色鮮やかに色づく。峡谷の色合いは、7割ほどがダケカンバ類の黄葉で占められている事からカエデ類の深みのある紅葉は特に目立ち、見頃は例年10月上旬~中旬頃。



④天狗の引き白岩

天狗の引き白岩の由来は、童謡詩人の野口雨情が昭和2年に来層した際、「ゆうべ夢見た層雲峡の夢を、天狗でなければ引かれぬ天狗の引き白夢に見た…」と詠んだことから命名される。雨情の代表的な童謡には「赤い靴」「シャボン玉」「七つの子」などがある。



⑤ウダイカンバの大木

北海道を代表する樹木のひとつに白い幹肌で美しいシラカンバやダケカンバがあるが、材となるとあまり評価は高くない。カバノキの間ではウダイカンバが一等の高級材であり、他のカバノキとは比較にならないほど良質な為、「真樺」と呼ばれている。カバノキは落葉高木で冷涼な高原や寒冷な高山などに分布しており、大雪山では山麓から亜高山帯まで広範囲に見られる。



⑥ニホンザリガニの沢

ニホンザリガニは、北海道と東北の一部にわずかに生息している日本固有のザリガニである。体長は4~8cmと小型で体色は暗褐色をしており、夏でも冷たい沢や溪流に生息している。江戸時代には、ニホンザリガニの「胃石」が切り傷、眼病などの薬として売買され、当時は同量の金と比べられるほど珍重されたという。



⑦凍裂木

厳寒期に樹木中の水分が凍って膨張し、幹に縦状の亀裂が入ることを凍裂という。落葉樹は秋に葉を落とすので冬には光合成を行わないが、常緑の針葉樹は冬でも天候によっては根から水分を吸い上げ光合成を続けており、その水分が凍るために起こる現象で、特に針葉樹のトドマツに多く稀に広葉樹にもできる。



⑧層雲峡の湧出口

層雲峡温泉の湧出口は30以上あり、ほとんどが天然に湧出している。泉温は46～93度で高温のものが多く、PHは6.4～7.4でいずれも単純泉に属する。紅葉谷駐車場周辺は、石狩川南岸から約1km支流の赤石川に沿って、それに注ぐ九十九沢との間に挟まれた地域で、約200m×100mの範囲に20以上の湧出口があり、層雲峡の中で最も多くの湧出口が密集している。



⑨クマの木

ヒグマは北海道を代表する動物で、大雪山では山麓から高山帯まで広範囲に生息している。紅葉谷ではトドマツなどの樹木にヒグマの爪痕が見られ、この木は以前コクワの蔓が絡みつき、実が生る頃にクマがよじ登った際に爪痕を残したとされる。北米では、幹に爪痕や噛み痕などのついた木を「ベアーツリー」と呼ぶ。



⑩カツラの木

カツラは、ねじれた縦の樹皮とハート形の丸い葉が特徴的で、平地や山地の沢沿いなど、やや湿った斜面に生える。樹高は20～30m、太さは約1～2mにもなる北海道で一番大きくなる樹木といわれている。カツラの由来は、香出(かづ)、香りが出るという事からついたようで、秋になると黄葉した葉からはとても良い香りがする。



⑪赤石川

赤石川のアイヌ語名はシュマフーレベツ「石・赤い・川」という意味で、水源は大雪山のお鉢平旧噴火口の底部(標高1910m)を源とする。全長は約10km、川幅最大7mの河川で、特に上流部では噴気孔から硫化水素が出ている為、酸性度が極めて強く上流部ではPH3.1～3.6を記録。川石は全体的に赤茶けた色をしており、日本で最も強酸性の川のひとつといえる。



⑫クマガラの採餌木

クマガラは、全身が黒く後頭が赤い日本最大のキツツキで、国の天然記念物に指定されている。クマガラはアリなどの昆虫を食べる際に、木の幹に大きな穴を数カ所ほど開ける。木に穴を彫る際に、舟掘りのような縦長の穴を開ける事からアイヌ語で、「チプタチカム・カムイ」(舟を彫る鳥の神)と呼ばれる。



⑬エゾモモンガ

北海道の低地から亜高山帯の森林に生息し、主に夜間に活動する。目が大きく、皮膜を広げて樹木間を滑空するので、活動は完全な樹上生活といえ、繁殖期以外は日中見かける事はほとんどない。層雲峡周辺では、比較的広範囲に生息している事から身近な動物で、散策路沿いでもトドマツの葉を食べた痕や糞などが観察できる。



⑭倒木更新

倒木更新とは、寿命や伐採などによって倒れた親木や根株の上に種子が落ちて発芽し、稚樹となって成長していく樹木の世代交代をいう。種子が地表に落ちても、林床には笹や樹木が生い茂り日照不足の為、発芽してもなかなか生育できないが、親木の上は適度な湿り気と養分、日照問題も緩和されて良い苗床となる。



⑮オンコ岩

散策路沿いの大きな岩の上に、覆いかぶさるように生えている所からオンコ岩の名前がつく。オンコという名は北海道・北東北地方の方言であり、アイヌ語ではない。和名はイチイという常緑樹で、アイヌの人は果実を咳止めや下痢止めとし、材は弓やかんじきの材料に利用する。(アイヌ語・ラルマニ)



⑯ミヤママタタビ

ミヤママタタビは落葉蔓性木本で、他の樹木や岩などからみつき、よく分枝する。花は葉の下側に咲くのであまり目立たないが、花期には葉が白色からピンク色に変化する為、遠くからでもよく目立つ。



⑰柱状節理

熔結凝灰岩が冷却する際に収縮してできる割れ目で柱状に形成されている事から柱状節理と呼ばれ、断面の多くは六角形や多角形をしている。絶壁の生い立ちは、約3万年前の火山活動による噴出物が火砕流となって古石狩川を含む低地を埋め尽くし、平坦な面となって流れ広がる。このとき厚く堆積した部分では、内部の高温と自重の圧力で再び溶岩のように熔けて固まり熔結凝灰岩となる。その後、石狩川の長い年月により、現在見られるような絶壁が形成される。



⑱紅葉滝

紅葉滝は、落差10mほどの2段からなる滝で形態的には「段瀑」に分類され、旧噴火口お鉢平から流れる赤石川最下流の滝である。赤石川は全長約10kmの河川で、上流の飛竜の滝から下流の紅葉滝まで大滝、小滝が確認されている。

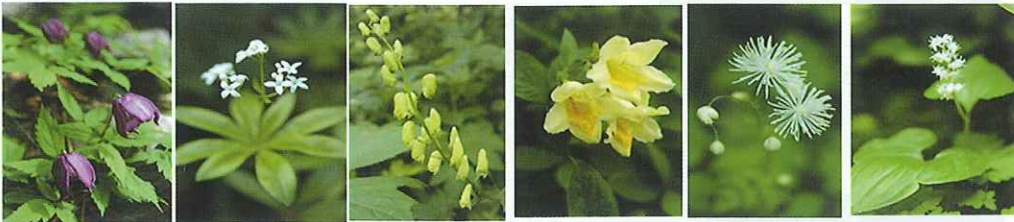
層雲峡・紅葉谷で見られる花



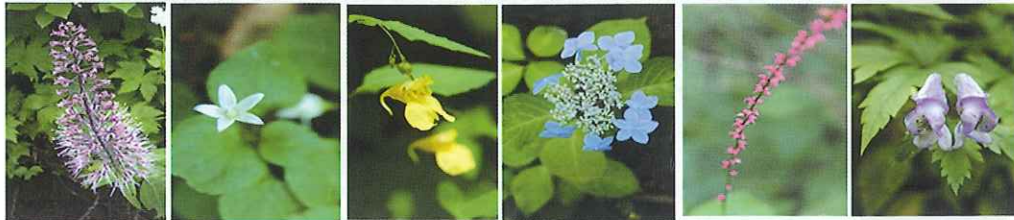
ヒメイチゲ 5月中～6月初
 エゾエンゴサク 5月中～6月初
 ニリンソウ 5月中～6月下
 コミヤマカタバミ 5月中～6月下
 エンレイソウ
 ミヤマエンレイソウ 6月初～6月下



コヨウラクツツジ 5月下～6月下
 ミヤマスマミレ 6月初～6月下
 ツバメオモト 6月中
 オオカメノキ 6月初～6月下
 ムラサキヤシオ 6月初～6月下
 ズダヤクシュ



ミヤマハンショウヅル 6月初～7月初
 クルマバソウ 6月初～7月中
 エゾノレイジソウ 6月下～7月中
 ウゴンウツギ 6月下～7月初
 ハルカラマツ 6月下～7月初
 マイツルソウ 6月下～7月初

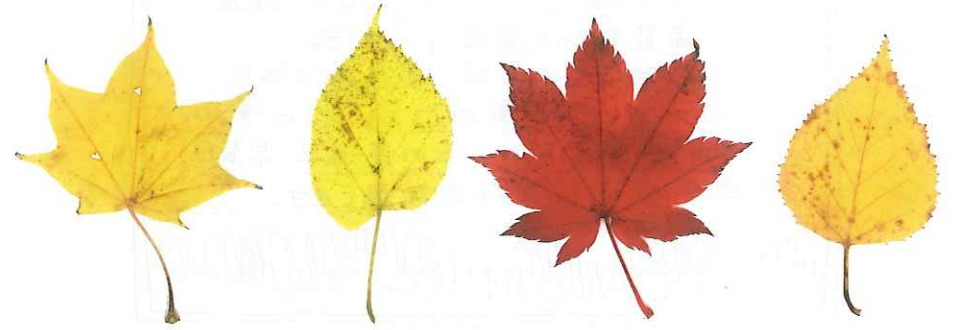


ハクセンナズナ 6月下～7月下
 タニギキョウ 7月初～7月下
 キツリフネ 7月下～8月中
 エゾアジサイ 8月中～8月下
 ミズヒキ 8月中～8月下
 エゾトリカブト 8月中～8月下

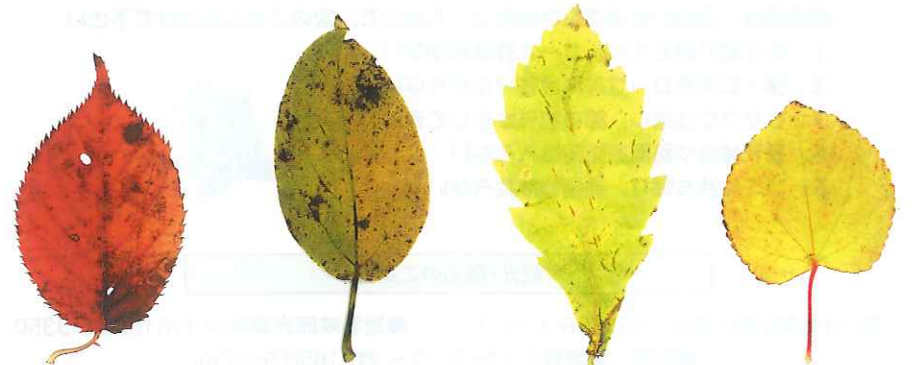
層雲峡・紅葉谷で見られる紅葉する代表的な樹木



ダケカンバ (黄～黄褐色)
 オガラバナ (橙～赤色)
 ナナカマド (赤～橙色)
 ウダイカンバ (黄色)

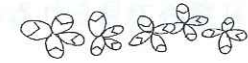


イタヤカエデ (黄色)
 シナノキ (黄色)
 ハウチワカエデ (赤～橙色)
 シラカンバ (黄色)



エゾヤマザクラ (赤～橙色)
 ドロノキ (黄～黄褐色)
 ミズナラ (黄色)
 カツラ (黄色)

層雲峽の歴史



層雲峽の溪谷を最初に知ったのは北海道の先住民であるアイヌの人達でした。和名としての一号発見者は足軽 松田市太郎で、今が遡ること約150年前のことです。その後、松浦武四郎や地理学者ライマンなど、いろいろな人物が言われました。その当時、アイヌ語で、「ソウウンベツ」（滝の多い川）と呼ばれていましたが、文豪 大町桂月により、大正5年 層雲峽と命名されました。最初の温泉宿泊施設ができたのは大正4年のことで、現在の温泉街へと発展したのです。

紅葉谷入口には源泉地があり、200m × 100mの範囲に20以上の湧出口があり、泉温70℃以上の高温で、泉質は無色透明の単純泉に属します。



紅葉谷の利用心得

散策道は、沢沿いを通る山の中のコースなので、次のことに心がけて下さい

1. 歩きやすい靴で入り、コース外は歩かない
2. 張ってあるロープ等には寄りかからない
3. ヒグマに注意し、鈴を鳴らす等して歩く
4. 悪天候時や路面凍結時は入らない
5. ゴミは持ち帰り、動植物は採らない



観光・宿泊のご案内

●(社)層雲峽観光協会 ☎01658-2-1811 ●層雲峽観光案内所 ☎01658-5-3350

■監修 層雲峽ビジターセンター ☎01658-9-4400

<http://sounkyovc.net/>

■発行 北海道上川町/産業経済課

<http://www.town.kamikawa.hokkido.jp>